

< 中学校授業計画事例 >

1 単元名 第一次世界大戦とアジア・日本（広がる社会運動「解放を求めて」）

2 単元の目標

- 帝国主義などの背景や現在まで続く民族問題について関心をもつ。
(関心・意欲・態度)
- 大正時代の様子について、大正デモクラシーや多くの民衆運動を通して、考えることができる。
(思考・判断)
- 資料をもとに差別されてきた人々が、差別に対し、たくましく立ち上がっていく姿を読みとることができる。
(技能・表現)
- 第1次世界大戦の原因や概要と大戦後の世界の動きについて理解する。
(知識・理解)

3 単元計画（7時間）

主 な 学 習 活 動	配時
1 第一次世界大戦とロシア革命 ○ 大戦の原因や経過と結果とロシア革命について調べる。	1
2 国際協調の高まり ○ 大戦後の世界情勢と国際連盟の成立についてまとめる。	1
3 アジアの民族運動 ○ 中国の五・四運動、朝鮮の三・一独立運動の背景を理解する。	1
4 大正デモクラシー ○ 民主主義の高まりについて、護憲運動と政党政治の実現からまとめる。	1
5 広がる社会運動 ○ 労働運動や小作争議・女性運動等を取りあげ、当時の日本の社会情勢について明らかにする。 ○ 部落解放運動と全国水平社創立について調べ、部落の人々の思いや願いを考える。 (本時)	2
6 都市化と大衆文化 ○ 大正期の文化が大衆に広まっていくことについてまとめる。	1

4 本時の主眼

- 差別されてきた人々が水平社設立の運動をすすめてきたことについて、当時の歴史的・社会的背景から考えることができる。
- 資料をもとに、差別されてきた人々が、差別に対し、たくましく立ち向かっていった姿にふれ、差別をなくそうとする意識をもつ。

5 本時の展開

配時	学 習 活 動 と 内 容	教 師 の 支 援
1 0	1 前時の社会運動の高まりについて、復習をする。	○ 労働運動、農民運動、普通選挙、婦人参政権運動、水平社創立など民主主義を求める運動が広がったことをおさえる。こうした運動の中で、本時は全国水平社の創立の様子について学習を深めることを知らせる。
	全国水平社の運動とは、どんな運動なのかを考えよう。	
5	2 水平社宣言文を読み、全国水平社が創立された理由を考える。 ・解放令以後も差別は解消されていない ・団結して差別を解消していくため	○ 学習プリントに記入し、発表させ、学級全体に広げる。 ○ 解放令以後も差別は解消されていなかったことをおさえる。
1 0	3 差別解消の為に、立ち上がった人々の気持ちや行動を考える。	○ 差別解消の為に立ち上がった人々のたくましい姿をとらえさせる。
1 5	4 人の世に熱あれ、人間に光あれとは、どんな社会をめざしているのか話し合う。	○ 日本最初の人権宣言といわれていることをおさえる。
1 0	5 本時学習をまとめ、学習プリントに記入する。 解放令が発布された後も、差別に苦しんできた人々が、他の社会運動とも連携をとりながら、1922年、京都で全国水平社を創立し、さまざまな差別からの解放を求めて闘いを展開していった。	○ この学習で感じたことを書かせる。

めあて

全国水平社の運動とは、どんな運動なのかを考えよう。

1 水平社宣言文を読み、なぜ「全国水平社」が創立されたかを考えよう。

2 差別解消のために、立ち上がった人々の行動をどう思いますか。

3 水平社宣言文中の「人の世に熱あれ、人間に光あれ」とは、どんな世の中だろう。

4 水平社創立についてまとめよう。

いつ頃	
どこで	
だれが	
何のために	

5 今日の授業の感想を書こう。

綱 領

- 一、特殊部落民は部落民自身の行動によって絶対の解放を期す
- 一、吾々特殊部落民は絶対に経済の自由と職業の自由を社会に要求し以て獲得を期す
- 一、吾等は人間性の原理に覚醒し人類最高の完成に向って突進す

宣 言

全國に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。

長い間虐められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によってなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎らさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によって、又他の人々によって毎に人間を冒瀆されて来た罰であったのだ。そしてこれ等の人間を勦るかの如き運動は、かえつて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴望者であり、實行者であった。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であったのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥ぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢のうちにも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあった。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、その荊冠を祝福される時が来たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によって、祖先を辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何んなに冷たいか、人間を勦る事が何んであるかをよく知つてゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讚するものである。

水平社は、かくして生れた。

人の世に熱あれ、人間に光りあれ。

大正十一年三月三日

全國水平社創立大會

（ここに掲載している原文資料は、教師用です。）

（中学生の学習で使う資料は、P 69の小学校の資料と同じになります。）